

平成 28 年 5 月 31 日

平成 27 年度学校法人浪速学院

浪速高等学校・浪速中学校事業報告書

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

I. 法人の概要

①教育方針・校訓・教育目標

○ 教育方針

本校の教育方針は、教育基本法に拠り、新教育の理念に則り、民主的、社会的、平和的、自主的、創造的な人格の確立を目標にし、我が国の精神と伝統の文化を重んじ、祖先の精神を受け継ぐ心を育むことに努める。

即ち、神社神道の精神によって、敬神崇祖の精神を養うと共に道徳心を以て社会の秩序を守ることを基本とし、未来に羽ばたく若者を育てることが本校教育の基調である。

○ 校訓

神社神道の理念である「浄・明・正・直」を校訓とし、生徒指導の基本とする。

○ 教育目標

校訓に基づき全人教育は教育の基本である。同時に生徒の才能と適正を開発し、学力体力の増進を図り、個性豊かで心身ともに健全な次代の日本を担う人間を育成する。

1) すべての生徒に人間性豊かな心を！

校訓のもとに徳性を涵養し、礼儀を重んじ、感謝の心をもつ生徒の育成に努める。

2) すべての生徒に学習の喜びを！

生徒の無限の可能性をひき出すために、基礎学力の充実を図り、主体的に学習させることにより、学習する喜びをもたせるよう努める。

3) すべての生徒に体力と気力を！

健康に留意し、「健康の自主管理」をモットーに体力の向上を図り、頑張りのおきく体力、気力をもつ積極性のある生徒の育成に努める。

②沿革

1923年（大正12年）	財団法人大阪国学院により「浪速中学校」設立
1948年（昭和23年）	学制改革により「浪速高等学校」と改称
同年	浪速中学校併設
1958年（昭和33年）	「中学校」募集停止
1983年（昭和58年）	「理数科」設置
1985年（昭和60年）	「新総合体育館」竣工
同年	「中学校」募集再開
1989年（平成元年）	全教室「冷暖房」完備
1997年（平成9年）	普通科に「英数コース」、「総合コース」設置
2005年（平成17年）	高校男女共学・コース再編
同年	特進文科コース、英語集約コース設置
2007年（平成19年）	中学校男女共学スタート
2009年（平成21年）	校外宿泊学習施設「多聞尚学館」開館
同年	関西大学パイロット推薦制度指定校
2010年（平成22年）	校外総合運動場「浪速ふくろうスタジアム」竣工
2011年（平成23年）	法人名を「浪速学院」に改称
同年	「浪速武道館」竣工
同年	「新クラブハウス」「新カフェテリア」竣工
2012年（平成24年）	「千早清明寮」竣工
2013年（平成25年8月）	校内人工芝グラウンド 竣工
2014年（平成26年3月）	新校舎「東館」、新東門「天岩屋戸門」竣工
2015年（平成27年8月）	新校舎「中央館」竣工
2016年（平成28年3月）	新学院神社 竣功

③設置する学校

・ 浪速高等学校	全日制課程	生徒定員	2160名
		（普通科	2040名）
		（理数科	120名）
・ 浪速中学校		生徒定員	360名

Ⅱ. 法人会議

(1) 理事会

①平成 27 年度第 1 回理事会

開催日時 平成 27 年 5 月 29 日（金）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分

開催場所 学校法人浪速学院 新館ホール（新館 2F）

出席者 理事 6 名 監事 2 名

審議事項 ・理事長より「法人経営と校務運営の理事長・学院長の総括報告と提議・審議」について

・理事長の総括報告・提議・審議を受けての各種報告について

- ① 平成 26 年度決算（案）並びに平成 26 年度事業報告（案）
- ② 平成 26 年度決算に係る監査報告及び公認会計士による総括
- ③ 新校舎建設の進捗状況（資金計画と借入返済）について
- ④ 開校 90 周年記念事業 新校舎建設募金の募集状況
- ⑤ 理数科の廃止と普通科文理 S1 コースの設置について
- ⑥ 「海道東征」浪速について
- ⑦ 「学院神社神楽」について
- ⑧ 学則変更について（高校教育課程）
- ⑨ 学校自己評価について 他

②平成 27 年度第 2 回理事会

開催日時 平成 27 年 6 月 23 日（火）午後 3 時 30 分～午後 4 時 00 分

開催場所 学校法人浪速学院 新館ホール（新館 2F）

出席者 理事 6 名 監事 2 名

審議事項 ・平成 26 年度修正決算（案）

・平成 26 年度修正決算に係る監査報告 他

③平成 27 年度第 3 回理事会

開催日時 平成 27 年 8 月 25 日（火）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分

開催場所 学校法人浪速学院 西館ホール（西館 2F）

出席者 理事 5 名 監事 2 名

審議事項 ・理事長より「法人経営と校務運営の理事長・学院長総括報告と提議・審議」について

議」について

- ・ 理事長の総括報告・提議・審議を受けての各種報告について
 - ① 新校舎建設の進捗状況（中央館竣工後の工事計画）について
 - ② 開校 90 周年記念事業 新校舎建設募金の募集状況について
 - ③ 学則変更（高校 収容定員の増員）について
 - ④ 「0 限授業」実施について 他

④平成 27 年度第 4 回理事会

開催日時 27 年 12 月 22 日（火）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分

開催場所 学校法人浪速学院 中央館ホール（中央館 1F）

出席者 理事 6 名 監事 2 名

審議事項 ・ 理事長より「法人経営と校務運営の理事長・学院長総括報告と提議・審議案件」について

- ・ 理事長の総括報告・提議・審議を受けての各種報告について
 - ① 平成 27 年度中間決算案
 - ② 平成 27 年度中間決算に係る監査報告
 - ③ 新校舎建設関連：施工業者との費用に関する折衝過程
 - ④ 新校舎建設に関する工事進捗状況と資金計画
 - ⑤ 開校 90 周年記念事業 新校舎建設募金の募集状況について
 - ⑥ 育鵬社教科書の採択状況について
 - ⑦ 高校修学旅行実施結果報告
 - ⑧ 学則変更（高校 教育課程）について
 - ⑨ 高校新入生納付金の値上げ検討の可能性について
 - ⑩ 選択定年制及び再雇用に関する制度の見直しについて
 - ⑪ 中高入試広報活動に関する中間報告 他

⑤平成 27 年度第 5 回理事会

開催日時 平成 28 年 3 月 24 日（木）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分

開催場所 学校法人浪速学院 中央館ホール（中央館 1F）

出席者 理事 6 名 監事 2 名

審議事項 ・ 理事長より「法人経営と校務運営の理事長・学院長総括報告と提議・審議事項」について

- ・ 理事長の総括報告・提議・審議事項を受けての各種報告について
 - ① 平成 27 年度一次補正予算並びに平成 28 年度予算及び平成 28 年

度事業計画

- ② 新校舎建設関連：施工業者への費用に関する支払計画
- ③ 平成 28 年度入試総括
- ④ 平成 27 年度大学進学実績
- ⑤ 学則変更（高校 教育課程） 他

(2) 評議員会

①平成 27 年度第 1 回評議員会

開催日時 平成 27 年 5 月 29 日（金）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分

開催場所 学校法人浪速学院 新館ホール（新館 2F）

出席者 評議員 19 監事 2 名

諮問事項 ・理事長より「法人経営と校務運営の理事長・学院長の総括報告と提議・審議」について

・理事長の総括報告・提議・審議を受けての各種報告について

- ① 平成 26 年度決算（案）並びに平成 26 年度事業報告（案）
- ② 平成 26 年度決算に係る監査報告及び公認会計士による総括
- ③ 新校舎建設の進捗状況（資金計画と借入返済）について
- ④ 開校 90 周年記念事業 新校舎建設募金の募集状況
- ⑤ 理数科の廃止と普通科文理 S1 コースの設置について
- ⑥ 「海道東征」浪速について
- ⑦ 「学院神社神楽」について
- ⑧ 学則変更について（高校教育課程）
- ⑨ 学校自己評価について 他

②平成 27 年度第 2 回評議員会

開催日時 平成 27 年 6 月 23 日（火）午後 3 時 30 分～午後 4 時 00 分

開催場所 学校法人浪速学院 新館ホール（新館 2F）

出席者 評議員 19 名 監事 2 名

諮問事項 ・平成 26 年度修正決算（案）

・平成 26 年度修正決算に係る監査報告 他

③平成 27 年度第 3 回評議員会

開催日時 平成 27 年 8 月 25 日（火）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分

開催場所 学校法人浪速学院 西館ホール（西館2F）

出席者 評議員15名 監事2名

諮問事項 ・理事長より「法人経営と校務運営の理事長・学院長総括報告と提議・審議」について

・理事長の総括報告・提議・審議を受けての各種報告について

- ① 新校舎建設の進捗状況（中央館竣工後の工事計画）について
- ② 開校90周年記念事業 新校舎建設募金の募集状況について
- ③ 学則変更（高校 収容定員の増員）について
- ④ 「0限授業」実施について 他

④平成27年度第4回評議員会

開催日時 27年12月22日（火）午後3時00分～午後5時00分

開催場所 学校法人浪速学院 中央館ホール（中央館1F）

出席者 評議員16名 監事2名

諮問事項 ・理事長より「法人経営と校務運営の理事長・学院長総括報告と提議・審議案件」について

・理事長の総括報告・提議・審議を受けての各種報告について

- ① 平成27年度中間決算案
- ② 平成27年度中間決算に係る監査報告
- ③ 新校舎建設関連：施工業者との費用に関する折衝過程
- ④ 新校舎建設に関する工事進捗状況と資金計画
- ⑤ 開校90周年記念事業 新校舎建設募金の募集状況について
- ⑥ 育鵬社教科書の採択状況について
- ⑦ 高校修学旅行実施結果報告
- ⑧ 学則変更（高校 教育課程）について
- ⑨ 高校新入生納付金の値上げ検討の可能性について
- ⑩ 選択定年制及び再雇用に関する制度の見直しについて
- ⑪ 中高入試広報活動に関する中間報告 他

⑤平成27年度第5回評議員会

開催日時 平成28年3月24日（木）午後3時00分～午後5時00分

開催場所 学校法人浪速学院 中央館ホール（中央館1F）

出席者 評議員18名 監事2名

諮問事項 ・理事長より「法人経営と校務運営の理事長・学院長総括報告と提議・審議

事項」について

- ・ 理事長の総括報告・提議・審議事項を受けての各種報告について
 - ① 平成 27 年度一次補正予算並びに平成 28 年度予算及び平成 28 年度事業計画
 - ② 新校舎建設関連：施工業者への費用に関する支払計画
 - ③ 平成 28 年度入試総括
 - ④ 平成 27 年度大学進学実績
 - ⑤ 学則変更（高校 教育課程） 他

Ⅲ. 事業の概要

1. 学校改革の軌跡と新しい歴史の始まり

本法人は、木村理事長を招聘して以来、9年にわたり「浪速改革」を断行してきた。就業規則の改定・新人事制度並びに新給与体系への移行、人材育成・評価システムの導入等も含めて教職員の人件費抑制施策に踏み切る一方で、入試広報室へ経営資源を投入してきめ細かく生徒増加対応策を展開し、財務体質の改善に取り組んだ。また、教職員の意思結集・一致協力のために学校の組織化と新たなマネジメントの実践し、新しい設備・施設へ積極投資した広報戦略の成功により、経営改善の成果とも呼べる「多聞尚学館」、「浪速ふくろうスタジアム」、「浪速武道館」、「クラブハウス棟」、多聞「千早清明寮」の完成を遂げた。

そして25年1月より最大の眼目である新校舎建設計画が本格的にスタートし、校内グラウンド全面人工芝生化を経て、26年3月に西館内部改修（中学校校舎）とともに新校舎「東館」、新東門「天岩屋戸門」が完成した。続いて（旧）学院神社の撤去・移設（岩手県大船渡市）、遙拝所新設、クラブハウス棟「体育教官室」新設を行った。

27年度に入り、新校舎「中央館」竣工に始まり、「トレーニングルーム」設置、「吹奏楽室」「西館音楽室」改修、「第二ボクシング練習場」設置、「中学技術室」設置改修、西館外壁改修、そしていよいよ28年3月末に新しい「学院神社」の誕生とともに正門・外構工事が竣工する。

これまでの9年間で、今や他校を追い越し、圧倒的に凌駕する燦然と輝く教育環境の整備が最終局面を迎え「新しい学校の形」の完成に至る。本校が未来永劫に亘って発展するための「浪速の礎」となり、今ここに浪速百年の新しい歴史が始まる。

2. 教育トライアングルの有効活用

27年度は、遂に新校舎8階建「中央館」が完成し、27年8月より使用を開始した。続いて計画最終段階である「学院神社」の御造営に着手し、同年12月9日には学院神社御造営上棟祭を、斎主 本学院名誉理事長 寺井種伯（大阪天満宮宮司）、副斎主 本学院理事長職務代理 南坊城充興（道明寺天満宮名誉宮司）のもと、御斎行申し上げ、大阪府内各神社の宮司様をはじめ、125名の御関係の皆様にご臨席を賜り、全校生徒2,400名がうち揃い、古式に則った上棟祭を滞りなく執り行うことができた。

新しい浪速100年の歴史に残る盛大なる規模で本格的な祭礼の機会を経験し、教職員・全校生徒共々、人生における極めて貴重な時間を共有することとなった。

この新しい象徴となる「学院神社」の誕生をもって「浪速改革」の集大成である新校舎建設計画は最終章を迎え、本校は新しいステージに突入する。

校外の学習宿泊施設「多聞尚学館」、同じく校外の多目的グラウンド「浪速ふくろウスタジアム」、そして校内の三代目御本殿の「学院神社」・新校舎「中央館・東館」・「浪速武道館」・「クラブハウス棟」・「人工芝グラウンド」のこれらの施設によって形成する教育トライアングルを文武両道の拠点として、来年度以降の生徒数の安定確保のために、本年度も広報活動において有効活用していく。

3. 生徒募集

28年度生徒募集状況については、入試広報部の詳細な資料の通り、志願者ベースで高校2,238名・中学123名となり、大阪府下私学において存在感を示した。また、入学者ベースでも高校は720名、中学は95名となり、この結果28年度の在籍生徒数は2,496名（高校2,239名、中学257名）と過去最高を更新し、且つ3年連続で2,400名を超え、遂に2,500名に迫る名実ともに府内屈指の大規模校となった。

大阪府私立高校授業料無償化策を背景に募集定員を上回る入学者を確保できた最大の要因は、平成19年より間断なく取り組んできた「浪速改革」が内外に評価された成果であった。

4. 類・科・コース並びにクラス数・生徒数

27年度の全校生徒数は2,415名となり、前年度に引き続き過去最高の生徒数を更新した。より付加価値の高い提供し、しなやかで頼もしい浪速生を育成するためにも、教員には教科指導・生活指導の両面において、緊張感をもって対応する必要がある。

5. 学校運営体制

(1) 全般

27年度は全校生徒数が2,415名と前年度並みの生徒数となり、常勤講師29名の教員を迎え入れ、教職員総合計171名（前年度対比+4名）で運営を行った。

(2) 管理職

27年度の管理職は、前年度に引き続き木村理事長による学院長および高等学校長兼務を筆頭に、竹島中学校長および高等学校副校長は今年度より入試広報担当主管を兼務した。宮高校教頭は今年度より高等学校副校長および中学校副校長に就任し、高校教頭を兼務した。中村中学校教頭および入試担当教頭は前年度に引き続き業務を継続した。また宮木事務長代理は事務長に就任した。そして今回新たに飯田高校教頭補佐、出口中学校教頭補佐、吉田事務長代理の3名を「管理補佐職」として管理体制に加え、教職員への指導育成を重視して更なる「学校改革」を推し進めていった。

6. 学校行事

27年度は、「新春拝賀始業式」「中学校運動会」「陸上競技大会」「浪速祭」「高等学校耐寒訓練」「中学校耐寒金剛山登山」「合唱コンクール」「高校海外語学研修」を例年通り実施した。

6度目となる「高校海外修学旅行」では、出発直前に起きたテロ事件によりフランス班の中止を余儀なくされたが、他のコースの参加生徒全員が無事に帰阪し成功を収めた。中止となったフランス班の代替措置については3月にロサンゼルス・ハワイ・沖縄の3コースで対応し無事に終えた。28年度は、今回の事件を受けてフランスへの修学旅行は中止とし、代わりにオーストリア・チェコスロバキアコースを新たに加え、イタリア、ドイツ、イギリス、アメリカ、沖縄の計6コースとし、各国の情勢を常時関係機関からの情報収集に努め、柔軟に対応していく。

2年目となる「エンパワーメントプログラム」は前年同様十分な効果が得られた。また「夏期特別選抜合宿(高校3年生対象)」は場所を石清水八幡宮に移して実施した。また今回新たに「中学イングリッシュキャンプ」「中学海外語学研修」を実施した。それぞれ結果を詳細に検証して定着化を図る。

7. 生徒指導上の目標

27年度も前年度同様、「教科指導」並びに「生活指導」を重要課題と位置づける。「教科指導」に関しては、より付加価値の高い教育の提供のために教員一人一人の質的向上を目指していく。大学教授との連携による「指導法研究会」や「公開授業」は立ち上げから4年目に入り定着化してきており、更なる「教員の指導力向上」を図り、「浪速の教育力」を確固たるものにする。

「生徒指導」に関しては、従来通りいじめの根絶と公共心の涵養を目標とする。前年度に引き続き外部生徒生活指導員の配置し、電車通学の生徒を中心に登下校時の安全確保と通学マナーの指導を行い、服装、マナー、通学態度の改善を図るため引き続き全教職員が一致協力して取り組んでいく。

IV. 財務の概要

1. 平成27年度決算の概要

資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書は別添参照

2. 資金収支

生徒数増加にともない学生生徒等納付金及び補助金収入ともに増加（前年比23百万円増加）した。新校舎建設に伴い新校舎建設引当特定資産1,200百万円の取り崩しを行い、建設費用支払いに充当した。資産運用支出において実質50百万円の積み増しを行ったうえで、次年度繰越支払資金は924百万円となった。

3. 消費収支

帰属収入2,382百万円（対前年比7百万円増加）、消費収入978百万円（対前年比1,240百万円減少）となった。消費支出1,794百万円（対前年比277百万円増加）となり、当年度

帰属収支差額（帰属収入－消費支出）が 588 百万円となり、当年度消費収支超過額（消費収入－消費支出）△816 百万円となった。この主な要因は、新校舎取得に伴う基本金組入額 1,403 百万円と、旧校舎取り壊しによる建物除却等 260 百万円によるものである。

尚、前年度繰越消費収入超過額 1,027 百万円により翌年度繰越消費収入超過額は 211 百万円となった。

4. 貸借対照表

資産の部合計は 12,586 百万円（対前年比 749 百万円）で過去最高を更新した。これより負債の部合計 2,933 百万円を差し引いた本年度の資産総額（差引正味財産）が 9,653 百万円（対前年比 588 百万円増加・106.5%）となり、これもまた同じく過去最高を更新した。

以 上